

報 告 書

未来の柏の図書館について語り合おう！（1）

パレット柏

平成 30（2018）年 7 月 29 日（日）

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）

1. 基本情報

1.1. 開催日時

平成 30 (2018) 年 7 月 29 日 (日) 15:30~17:30

1.2. 会場

パレット柏ミーティングルーム D (柏市柏 1-7-1)

1.3. 参加者数

参加者 : 23 名

1.4. 事務局

生涯学習課

高村課長、橋本副参事、柳川副主幹、川本主任

図書館

小池館長、千田副主幹

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

岡本、李、鎌倉、宮田

2. プログラム

プログラムは以下の通りです。

時間	内容
15:30~15:35 (05分)	趣旨説明、本日の流れ
15:35~15:45 (10分)	自己紹介
15:45~16:20 (35分)	ワークショップ#1 図書館への期待と課題
16:20~16:30 (10分)	休憩
16:30~17:10 (40分)	ワークショップ#2 どんな図書館だったら行ってみたい ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること
17:10~17:25 (15分)	グループ発表 (3分×3グループ) とまとめ
17:25~17:30 (05分)	閉会の挨拶と事務連絡 (今後の予定等)

3. グループ1

3.1. 図書館への期待

- ・ いろいろな本を置いてあり、いつでも興味を持ったことを調べることができる。
- ・ 挑戦を促す場所であってほしい。自分で買えない難しい本が読めるだけでなく、講座やイベントを開くことで、学び直しや、起業への挑戦を応援することもできるはず。
- ・ 中高生がたまる場所がないので、彼らの居場所（サードプレイス）としての役割も図書館には期待したい。
- ・ 本と博物館を融合させた、新しい展示や見せ方を示してほしい。
- ・ 地域の文化資源を扱う総合的な機関となってほしい。
- ・ 分館は子どもを連れて行きやすい場所にあるので、読み聞かせや子育て支援の場としての機能を充実してほしい。
- ・ 学びのセーフティネットとなってほしい。

3.2. 図書館の課題

- ・ 一部の人しか使っていない。多様性がない。市民の利用が少なすぎるのではないかな。
- ・ 本館の建物が古く、老朽化していること。
- ・ 本館は駅から距離があるが、駐車場が少なく、路線バスもないので、アクセスが難しい人がある。
- ・ 分館がたくさんあるが、特徴や魅力に乏しい。柏の葉地区に分館がない。
- ・ 20年後、30年後に向けた展望がない。

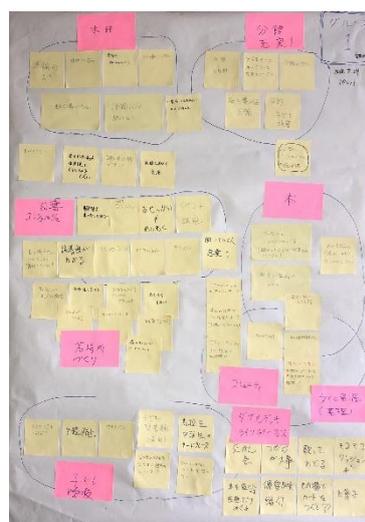
3.3. どんな図書館なら行ってみたい

- ・ 無線LANや電源が気軽に利用できたり、貸出もセルフで行えるようになったりすると、使い勝手がよくなる。
- ・ 本とインターネットのどちらかに偏りがちなので、両方の使い方を学べるとよい。
- ・ 本の紹介だけでなく、勉強を教えてくれるなど、少しおせっかいな司書（コンシェルジュ）がいたら使ってみたい。
- ・ 一部の市民でなく、いろいろな職業や年齢層の人がいる場所があると、本だけでなくそこに集まる生きた人から学ぶこともできる。

3.4. ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

- ・ 人の流れが速いところなので、歌や踊りなどのパフォーマンスで注目を集めるとよい。

- ・ 本を持ち寄って、その場で交換会をする。
- ・ 自分な好きなジャンルの本を10冊のどこが好きかを語る「偏愛ブック紹介」をする。
- ・ その場で利用カードが作れる。
- ・ 袋に入れてた本の紹介文だけ読めるようにして、タイトルや著者や装丁が見えない状態で交換するというアイデアもある。
- ・ 本だけでなく、モコモコクッションやお菓子を用意して、居場所としての図書館を体験してもらえる場所をつくる。



4. グループ2

4.1. 図書館への期待

- ・ 映画や講演会ができるような場所があるとよい。
- ・ 静かに読むだけでなく、話せる場所もほしい。その延長でカフェもあるとよい（日比谷図書文化館のような）。
- ・ 柏市は分館が多いので分館をうまく活用できるとよい。
- ・ この施設、この図書館があるから選ばれるようなまちになってほしい。我孫子市民図書館を訪れたときにはそれを感じた。
- ・ 母親たちのコミュニティの場となってほしい。

4.2. 図書館の課題

- ・ 昔は行っていたが、行かなくなった（魅力がなくなった）。
- ・ 現図書館でも努力はしているがそれが市民に届いていない。
- ・ 図書館の印象がない。ソフトの充実が大事ではないか。

- ・ こども図書館はよく利用されているし、うまくいっている。こども図書館の方はターゲットの層に対して使われる場になっている。

4.3. どんな図書館なら行ってみたい

- ・ 知的なもの、レクリエーション的なものを得ることができる、知的好奇心に応える図書館。
- ・ 幅広い人が来て、世代や層を超えてクロスする場（図書館が本来持ついいところ）。
- ・ ただ本があるのではなく、レファレンスが充実していて、利用者同士が本を紹介しあうこともできる場。それによって市民同士がつながることができる。
- ・ 人と本がつながり、人と人がつながる、人と本（資料）のネットワークの場。
- ・ カフェのある本屋や本のあるカフェとの違いとして、「共有の場」であることが大事。

4.4. ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

- ・ 返却ポストを置いたり、図書館カードをつくったりすることができる等、図書館の機能やサービスが体験できる。
- ・ 現状の図書館と新しいタイプの図書館（先行事例）を可視化し、関心を持ってもらう。



5. グループ3

5.1. 図書館への期待

- ・ 駅での本の返却・受取ができるとありがたい（例：流山市）。
- ・ 読書できるスペース・空間が増えるとよい。

- ・ 併設でなくても構わないが、近隣等にカフェがあると使い方が広がる。
- ・ 分館を充実させてほしい。量の問題ではなく質の問題であり、現状の分館は手狭すぎる。

5.2. 図書館の課題

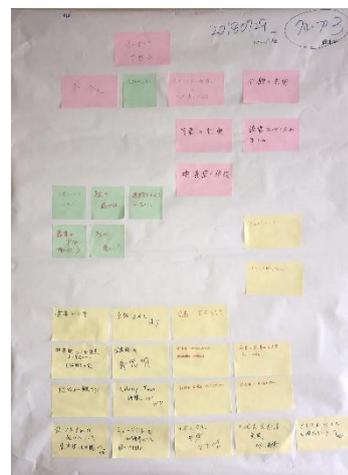
- ・ 建物が古すぎる。結果的に学習スペースをはじめ、各種スペースが手狭である。
- ・ 駅から遠い。駐車場が少ない。ただし、この問題は住まいの場所によって人それぞれではある。
- ・ 図書館のイメージは千差万別。いまこそ図書館の再発明が必要である。
- ・ 駅に返却ポストがない。

5.3. どんな図書館なら行ってみたい

- ・ 40万人都市である以上、ミュージアム機能が必要であり、ミュージアムとライブラリーが一体であれば嬉しい。
- ・ 多様な市民が存在する以上、一人ひとりの希望を叶える図書館であってほしい。その意味で、にぎやかな空間、静かな空間、子どもが伸び伸びと遊んでいい空間とゾーニングが工夫されているとよいだろう。

5.4. ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

- ・ 街頭でのシール投票インタビューができないか。LRG別冊3の各イメージを示し、投票してもらうイメージ。
- ・ 図書館に関わる最新の機器・テクノロジーにふれられるショールーム。
- ・ ビブリオバトルや公開ブックトーク。



以上